

午後Ⅱ試験

問 1

出題趣旨

企業活動がグローバル化し、システム開発や運用業務をはじめとして、様々な業務の拠点を海外に広げる企業が増えている。それに伴い、技術情報や顧客情報などの機密情報の管理を巡るトラブルや事故の発生も少なくない。国内拠点でシステム開発や運用業務を行っているときには想像もできなかったリスクが顕在化することもあることから、海外拠点に特有のリスクを考慮しなければならない。

また、国内拠点と同様の管理方法が海外拠点でうまく機能するとも限らず、グローバルな規模での管理方法の統一化についても難しい問題を抱えている。そこで、企業はこれまでとは異なった管理方法を考えなければならなくなった。

本問では、文化や商慣習などが異なる相手に対して実効性のある情報セキュリティ監査をするための見識や能力を問う。

問 2

出題趣旨

今日、組織における IT 利用の多様化に伴い、多くの組織がシステムの開発や運用などにかかわる製品やサービスを複数のベンダから調達している。

このような状況において、組織全体のシステムの品質や情報セキュリティなどを適切な水準に保つのが難しくなっている。したがって、ベンダ及びその製品・サービスの選定や契約のための評価、及び導入後のモニタリングを組織横断的な基準や手順で行うとともに、その評価及びモニタリング結果を用いて、組織全体の調達や管理を効果的かつ経済的に行っていくためのベンダマネジメントが必要となる。

本問では、組織横断的な観点から行うベンダマネジメントの仕組みやその運用を監査するための知識や能力を問う。

問 3

出題趣旨

情報システムや組込みシステムの重要性の高まりに伴って、システム開発におけるプロジェクト管理が失敗した場合の影響はますます大きくなっている。また、開発手法の多様化やオフショア開発など、プロジェクト管理で対応すべき事項も増えてきている。

一方、プロジェクト管理の対象となるシステムの構成や開発の条件などは様々であるから、規程やルールどおりにプロジェクト管理を行っているかどうかの準拠性の監査だけでは、プロジェクトに特有のリスクを低減するためのコントロールが機能しているかどうかを判断できないおそれがある。

本問では、情報システムや組込みシステムの開発プロジェクトにおける特徴と、プロジェクトに特有のリスクを踏まえて、プロジェクト管理の適切性を監査するための見識や能力を問う。